

資料のデジタル化について

【関連：目標3（1）】

ふくおか資料室

【事業目的】

当館が所蔵する貴重資料、郷土資料のデジタル化によって、原本に替わる便利な閲覧・利用手段を提供し、遠隔地サービスの充実と所蔵資料の保存と活用を図る。

【事業概要】

当館ホームページのデジタルアーカイブ「デジタルライブラリ」では、デジタル化した資料を公開している。平成12年に「貴重資料紹介コーナー」を設け、貴重資料であるシーボルトの著書から画像5点を紹介したのが始まりで、現在、当館所蔵（寄託を含む）の貴重資料・郷土資料を約530点（令和2年度末現在）公開中である。絵図、地図、絵葉書などの図版を中心に、一部古典籍もデジタル化している。令和2年3月末には、コロナ禍において非来館型サービスを充実するために、約800万円の補正予算を確保したため、ふくおか資料室のホームページを一新し、「デジタルライブラリ」もリニューアルした。新規には、大正時代から戦前の北九州市の地図を中心に6件デジタル化し公開した。

シーボルト資料	シーボルト（『NIPPON』、『日本動物誌』、『日本植物誌』）
近代以前のふくおか	『福岡県指定文化財』、『福岡県の近世絵図』ほか
近代以降のふくおか	『福岡県の近代地図』、『近代福岡市街地図』、『絵葉書で見る福岡百景』ほか
福岡県立図書館の歴史 （各時代と館報の紹介）	渡辺通時代『福岡県立図書館報』『福岡県立図書館年報』、東公園時代『文化福岡』、須崎公園時代『ふくおか文化』、箱崎時代『福岡県立図書館報』
映像・録音資料	「大嘗祭悠紀主基斎田」

リニューアルの主な特徴として、

1 デジタル画像の利用手続きの簡略化

画像の利用については、特別利用申請書の提出を義務付けていたが、リニューアルを機会にオープンデータ（営利非営利関係なく、利用申請書を提出することなく利用できる）にした。

（寄託資料については寄託者の許諾が必要） 利用規定に画像の利用方法を掲載した。

2 検索機能の充実

ホームページのトップ画面に、掲載資料全体をキーワード検索する「詳細検索」を設けた。その他、シーボルト資料と絵図、近代地図でも求める資料をいち早く探せるようにキーワード検索機能を追加した。

3 視点を変えて物事を見る機能を付与

「地図からみる」「タイムラインからみる」で空間と時間から資料を探す機能や、「ランダムな一覧からみる」で、公開するすべての画像が無作為に掲載される機能を追加した。その他、「現在の地図と比較する」「福岡市街の変遷を見る」といった機能を追加した。

【成果と課題】

1 成果としては、資料の特別利用申請について、令和2年度には56件受け付けたが、オープンデータにすることにより大幅に減少した。画像利用者と当館の事務手続きを簡略化できている。

2 課題としては、県内図書館のデジタル化の推進が挙げられる。福岡県内の公共図書館でデジタルアーカイブを公開しているのは、令和3年4月1日現在で、当館を含む7館（福岡市、春日市、田川市、行橋市、大牟田市、豊前市）にとどまっており、昨年度と横ばいである。11月に開催（インターネット動画配信）する全国図書館研究集会など市町村立図書館に対する研修でデジタル化への継続的な促進に寄与することで、県全体としてデジタルアーカイブの跳躍を遂げたい。